

学校法人 滋慶学園 東京ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 評価結果および改善方策

【2021年6月8日実施】

自己点検自己評価(2020年4月1日～2021年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 育 教 成 人 理 念 像 ・ 目 的 ・	1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	3		学校法人滋慶学園は「職業人教育を通して社会に貢献する」ことをミッションに「建学の理念」と「4つの信頼」を体現している。 【建学の理念】 ①実学教育 ②人間教育 ③国際教育 【4つの信頼】 ①学生・保護者からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③業界からの信頼 ④地域からの信頼 美容に関する高い専門技術、知識、情報力、感性、創造力、コミュニケーション力を持ち合わせ、入学者全員が即戦力として美容業界で活躍できる教育を提供することを組織目的に掲げて活動してきた。 現在、美容業界は消費者の美に対する意識の変化、多様化に伴い、お客様一人ひとりに合わせたプラスアルファの専門性を持った正しい知識・技術と質の高いサービスが提供できる人材養成が急務であり、これらの人材を養成することが、今後の本学における使命であると認識している。 また、顧客層の変化を敏感に察知し、業界が求める人材像を先取りした人材育成を必要とする。東京ベルエポック美容専門学校は「最新の美容を一人ひとりに」を掲げ、業界と連携した現場実践カリキュラムと一人ひとりを大切にサポートで入学者全員が即戦力として活躍できる教育を提供していく。学園の見学の理念、4つの信頼を基盤に、本校の3つのPに基づくカリキュラムイノベーションを常に意識していく。	1、実学教育 業界と連携したTOPサロンゼミ、インターンシップ、アシスタントプログラム、ビューティトレーニングランドが特徴である。 また、一人ひとりの習熟度を見極めるための少人数クラス運営を行なっている。 2、人間教育 開校以来『今日も笑顔で挨拶』を標語として掲げ、おもてなし教育にも向力を入れている。また、これらの教育プログラムを通じ、コミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル(ヒューマンスキル)や逞しさを身につける。同時に、自立した社会人・プロの職業人としての身構え・気構え・心構えを養成している。 3、国際教育 より広い視野でモノを捉える国際的な感性を養うべく国際教育、海外研修を実施している。日本人としてのアイデンティティを確立したうえで、価値観や文化の違いを尊重できるよう指導している。	3.0	TOPサロンゼミでは有名サロンの技術を学べるのは学生にとっても良い経験になる。そのサロン選定を誤ることがなければ「1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか」においても、時代やトレンドが変わっていったとしても適合し続けることができる。 少人数制のクラス、業界との繋がり等の環境が他の専門学校よりも長けている。 年々、いろんな学校さんから新入社員の方が入社する時、理想とのギャップもあるのか、精神面ですぐやめてしまう人を多く耳にしますし、弊社でも毎年います。なので、ベルエポック生には、どこのサロンにも採用してよかったと思える強い精神力を身につけて欲しい。 美容業界の実践的な関わりで得られる更なる夢や今後の課題に意識して取り組む事ができ、良い。 昨年度も述べさせていただいたが、人間教育にしっかりと取り組んでいることは大変すばらしいと感じている。
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3					
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3					
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	2					
2 学 校 運 営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	3	事業計画は学校運営会議、法人常務理事会、法人理事会、法人評議員会の決議を受け、承認を得ている。 学校の事業計画は毎年3月に研修を行い、全教職員へ周知徹底をしている。運営方針の実現のため、週1回の学校運営会議、学校全体会議及び学科会議、部署会議を通じて、問題点や課題を明確にかつ絞込みPDCAサイクルを回すことを意識している。	事業計画の構成 ①組織目的(普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的) ②運営方針(中期的に組織として目指していく方針) ③実行方針(中期的な組織の運営方針を実現するための単年度の方針) ④定量目標(受験者、教育成果(中途退学防止、欠席率、資格取得数、就職率、専門就職率等)) ⑤定性目標(人材育成や組織あり方等定性的な目標についての単年度目標) ⑥実行計画(その方針を実現するための詳細な計画) ⑦組織図(単年度) ⑧職務分掌 ⑨部署ごとの計画及びスケジュール ⑩附帯事業計画 ⑪職員の業績評価システム ⑫意思決定システム ⑬収支予算書(5カ年計画)	3.0	良い取り組みができています。 学校を卒業し、こういった機会に参加させていただき改めて、学校の為、生徒の為にどうしていくべきかどうしたらもっと良いかなど、組織化され考えられている。 計画や目標が定まっており、運営体制が整っていると感じる。 定量的・定性的な目標がしっかりと示されていて、それが全体に浸透している。それ故PDCAサイクルがしっかりと回っている。	
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	3					
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	3					
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	3					
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	3					
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	3					
			学校の組織目的と中期的学校構想のもと、事業計画を作成し、毎年の教職員研修で方針・計画を発表している。 事業計画を教職員が自立的に計画し決定し全員で共有する。その上で職場運営が実行に移されていく。運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われている。事業計画書の組織図には、学校に関わるすべての人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。 会議の議事録にルールを設けている。 ①主要な会議の議事録は次の日まで出席者全員に配布する。 ②議事録のフォーマットがあり、項目の中の「決定事項」に、アクションプラン(決定事項の次の担当者、行動、目標、期限などが)明示されている。 ③議事録の保管は理事会、評議員会の議事録は法人本部 戦略会議、運営会議の議事録は学校事務部で行っている 目標管理制度を基本とし、「成果と成長をチームで」達成することを念頭に置いている。 評価の対象としている目標項目は以下の通り。 数値化している目標…①入学者②進級者数(率)③資格合格者数(率)④就職者数(率)⑤収益率⑥学費未納率など 1. 理事会・評議員会 2. 学校戦略会議 3. 法人学校運営会議 4. 運営会議 5. 学校全体会議 6. 学科会議・部署会議 7. 各委員会会議 8. プロジェクト会議 これらの会議毎に参加者は選抜され、その中で各リーダーに権限は委譲されている。				

	2-7-1 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	2	学園として、広報、教育、就職、卒業後の情報システムの一元化、ICT化を図るべく動きがある。入学前、在籍中、卒業後の流れの教育システムの中で、学生一人ひとりの情報を一元管理し、学生のような支援(進路決定、就職支援、学費相談等)の際に、その情報を活かし、適切な助言ができることで、専門就職への内定獲得や資格合格に結びつけることである。また、業務の効率化により、教職員が直接学生と接する時間を多くすることが可能になった。今後数年かけシステム移行をし同システムでの一元化を目指しより業務効率を図っていく。	今後は更なるIT化に学園として取り組んでいる。 広報・・・広報システム 教務・・・次年度Teams導入予定 キャリアセンター・・・就職システム 学内だけではなく、ベル美容グループ4校の求人情報を共有し、学生一人ひとりの希望に合った就職支援をしている。	2.5	
3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	学科の課題を明確にして課題キーワードを抽出。それによって教育課程の見直しを毎年実施している。	社会環境の変化、学生の変化に対応したものになっているかの検証が必要となっている。	3.0	
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3	専門的な技術・知識の他に「目的意識を育て適性を見つけて育てるプログラム」と「プロに必要な態度・思考・倫理とそれらの基本となる知識を身につけるプログラム」の3種類を体系的に結んでいる。	人材ニーズの変化や業界の変化に応じ養成目的/教育目的の見直しやカリキュラムの変更を行っている。 学科長を中心に、学校責任者、教務部長、キャリアセンターと連携し、組織的に決定している。	2.8	
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	2	学期ごとの到達目標や学年目標を設定し、修業年限の中で確実に到達できる方法を確立している。	「業界調査」、「学科調査(入学者傾向、在校生傾向、就職先傾向)」、「競合校調査」を行いカリキュラムに反映させている。	2.6	
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	2	教育課程編成委員会を開催している。 また、在校生からのヒアリング、卒業生からのヒアリングを行っている。	教育課程編成委員会を年2回開催し、業界からの意見を取り入れている。卒業生の業界評価については、明確な意見聴取にはなっていない。	2.4	
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	2	キャリア教育の体系化を図り、学生の入学前から在学中、そして卒業後までサポートする職業教育へとつなげている。おもてなしの授業やコミュニケーションスキルの授業、担任授業を行うとともに、行事等を活用して行っている。	キャリアロードマップを作成している。キャリア教育を「キャリア形成段階」「キャリア設計段階」「キャリア開発段階」の3つに分類している。	2.4	
	3-9-4 授業評価を実施しているか	2	各科目において授業アンケートを実施し講師面談の際にフィードバックしている。	授業アンケート内容の精査と実施方法を検証する必要がある。	2.4	国家試験の合格率が減少してしまったのは厳しい結果だと思う。 コロナが原因で指導方法も変わり大変な状況もあったかと思うが、WITHSコロナとして次回の合格率を上げられるようにしていただければと思う。 教育・授業レベルに関しましてはとても高い。
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3	成績評価及び単位認定の基準は明確に定めている。 また一方で必要なレベルまできちんと到達させた上で進級、卒業を出来るように、成績不良が予想される学生に対しては、補習や特別授業を実施し、不足している部分を補う体制をとっている。	各科目、定期試験でAからEの5段階評価を行う。 A・B・Cを合格とし、E・Fを不合格とする。 A (100～80点) B (79～70点) C (69～60点) D (59～0点)合格 E 受験資格喪失 F (59～0点)不合格	3.0	業界調査というところで(お忙しい中で大変かと思いますが)卒業生への入社してから3ヶ月～半年、1年経ち、現場実習ではなく会社の一員となり、すぐに活躍している子もいれば、そうではない学生もいる。様々な意見・気持ちを聞いてみてもらいたいような発見、アドバイス、在校生に必要なことが見つかるのではないかな。 コロナ禍でなかなか上手く授業、勉強ができていない状況でもこれほど合格できているのは素晴らしい。 ですがやはり、こんな時でも例年変わらない合格率が欲しい。
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	2	コンテストの受賞記録については、表彰者写真などの画像データも含めて記録している。HPやSNSでの情報発信をしている。	外部コンテストへの積極的な参加促進とSNS活用指導。コンテスト出場や作品ポートフォリオの重要性を授業で伝える。SNSの活用方法を授業で伝える。	2.6	コロナ禍のやりにくい課題もオンラインを活用し、適切に行われていると評価できると思います。生徒だけではなく講師の教育力向上にも力を入れており、素晴らしい。
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	1	学科ごとに目標としている資格に対して、100%合格を目標に対策を立て、実施している。資格取得のサポート体制としては、学科ごとに若干異なるが、ほぼ全ての資格に対して対策講座を取り入れている。	美容師国家試験結果 【美容師科】 受験者97名 合格者80名82.47%、実技不合格者10名、筆記不合格者9名 【美容師実践科】 受験者21名 合格者15名71.43%、実技不合格2名、筆記不合格6名	1.8	卒業後のサポート体制がしっかりと整えられており、生徒・保護者に安心感を与えている。 コロナ禍の中でオンライン授業等、臨機応変に対応されている。 コンテストの審査員を務めた弊社アーティストからは、そのような状況の中でも前向きに取り組む学生たちの印象が強に残ったと聞いている。 接客の授業により接客の流れを体得しているからコーナーに立った時の即戦力に差がでてくる。引き続きコンテストのような目標を持ち、皆さんが接客スキルを磨いていただくことを期待している。
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	2	在学中不合格であった場合は、卒業後も合格まで指導していく体制をとっている。資格によっては、通常授業の中に対策講座を入れている。また、別途、特別対策講座を実施している。	滋慶学園国家試験対策センターと連携し、国家試験対策を実施しており、美容4校で組織する美容部会でも国家試験情報の共有をしている。 次年度は特に学力能力テストを実施し、効果的な支援計画を集団、個別に立てていく必要がある。	2.4	
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	美容師科においては養成施設の教員要件を満たした講師が授業を行っている。 新規採用の場合は4年以上の実務経験と当該科目の教員講習と認定を受けなくてはならない。	課題としては経験年数の長い講師ほど過去の教授方法にとらわれる傾向があるため、今後はITを活用するなど時代に沿った教育手法を取り入れることが必要。	2.8		
3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか	3	評価体制としては、授業アンケートや、オープン授業、日々の授業報告書等を通して、各教員の専門性の把握及び評価を行っている。 また面談によるヒアリングも行っている。	学園のFD研修、講師会議での研修実施など、教員勉強会の場を提供する。 また講師会議での勉強会も行っている。	3.0		
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	3	教職員の教育力向上は必須条件であり、学校と学園でそれぞれ研修を実施している。				



4 学 修 成 果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	2	開校以来就職希望者の内定100%は崩したことはなく、就職者数の目標を重点目標として掲げている。毎月就職内定状況と問題がある場合の対策を立て実行する。今後は就職希望者数を増やしていくことが課題である。	就職未希望者を出さぬよう、日ごろから業界情報、美容の仕事の魅力とともに、人間力を養う教育をしていく。 学校全体の就職の流れと平行し、一人ひとりの学生の就職モチベーションによる個別支援・指導を実施する。 実習やインターン等の外部に出すときには、実習前、実習中、実習後授業を強化する。	2.0	『4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか』の自己評価が1というのを改善したい。学校は学ぶところであり、学びの成果が出ていないということであれば問題かと思う。 『4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか』についてはsnsのアカウントを全て学校側も把握をして、卒業後もsns上で卒業生の状況を確認や関係構築をおこなえればさらに効率よく進められると考える。
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	1	各学科で資格取得の目標を達成するために、対策を立て、実行している。			100%内定は、とても素晴らしい。ですが、仕方なく受けて合格した学生は、すぐ辞めてしまうことが多いので、しっかりビジョンを持って、就職活動をして欲しい。
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	2	卒業1年後に離職調査を実施している。 また、不定期に内定先訪問を実施し関係先の強化を図っている。	卒業生が主体となり、アクティブで未来に向かって新しいことに挑戦する快活で個性的な活動を目指す。		卒業後の調査評価にも目を配り、就職に対するの安心感が得られている。 アフターコロナで個別対応の支援体制は様々なスタイルに変化していく。そのためにも「志」と「やりぬく力」が大切。  昨年は厳しい状況の中でのご対応だったと思われる。
5 学 生 支 援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	3	就職希望者内定率は100%であり、キャリアセンターと担任が連携しながら一人ひとりの就職活動状況を把握し個別支援を行っている。 また、各担任授業では、就職の具体的活動に関する指導を行うと同時に、キャリアセンターにおいても随時相談に乗れる体制を整えている。	滋慶学園グループの美容系専門学校4校の求人情報がキャリアセンターで閲覧することができる。各校で同じ分野の求人共有することができ学生が多くの情報を得ることができる。 企業の採用時期に合わせて学内企業説明会の開催している。また学内面接試験などを行っている。	3.0	学生支援はとても良い取り組みをされていると感じる。 特に教員全員がカウンセリングを学んでいるところは驚いている。 弊社でもメンタルの強くないスタッフが増えてきており、それも時代の流れだと思うが御校ではそのような今の若者に対する対応ができていて素晴らしい。  滋慶グループのサポートは、在学中とてもよかった。  コロナで生活面、学校面、様々な影響を受けている学生さんも少なくないと思う。 また、学校の支援体制をよく知らない人もいると思うので、一人暮らしの学生さん始め、学校には、親身に相談に乗ってくれる方がたくさんいるので、是非活用してほしい。  学業だけではなくメンタル面や金銭面、保護者との連携などのサポートがしっかりされていてこれから美容業界で活躍する生徒達の健康面も気を配られていて良いと思う。
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	3	中途退学の要因傾向は毎年その原因分類や発生時期など多角的な面から調査分析し、翌年以降の支援に役立てている。 また、キャリアサポートアンケートという学生の学習習熟度合いやメンタル面の状況などを把握するアンケートを活用し学生個々の状況を把握している。	退学者の傾向はわかってきているものの、問題発生前に防げるフロー構築が必要である。担任力の向上を図るべく、学園グループの研修をはじめ、学内研修、チーム内のケースカンファレンスなどの会議・研修システムを構築している。		
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	3	担任が定期的な学生面談を実施すると共に、本校の学生相談室は、「滋慶トータルサポートセンター(以下JTSC)」という名称で学生生活全般における不安や悩みの相談に乗っている。 センターには専属のカウンセラーが対応しており、学内との連携を図りながらサポートする体制が整備されている。しかしもっと利用を促せる支援体制が必要となる。	教職員全員がカウンセリングを学び、学園内組織(滋慶教育科学研究所)が主催する「JESCCカウンセラー資格」を全員に受講させ試験を実施することでカウンセリング技術の均一化を図る。 心理学ノカウンセリング基礎知識習得を行うことで、学生相談室との連携が非常にスムーズになっている。また、進路変更アドバイザーによる進路変更支援も定着してきているが、あくまでも、入学した学科で卒業、就職が出来るということを第一義的に考えている。		
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	2	留学生の相談等に対する体制として、国際教育センターの専門スタッフと学内の学生サービスセンター、担任の3者が連携を図りながら在籍管理から諸々の指導に至るまでを総合的な支援を行っている。	留学生に対しては担任による個別面談を定期的に行い、ピザや学費相談には学生サービスセンターの教職員が当たっている。留学生の日本語学習支援、日本人学生の留学生理解を担任が中心となり、個々の留学生が抱える問題を解決していく。		
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	3	入学前に申込をする日本学生支援機構予約採用候補者を対象とした学費分納制度を整備している他、教育ローン等も含めて学費に関する相談を学生サービスセンターが窓口で受けている。	【ヘルホック学費分納制度】 日本学生支援機構の予約採用を利用し、奨学金の採用決定月額で授業料の分納支払いをサポートするシステムである。毎月本人の指定口座へ振り込まれる日本学生支援機構奨学金を授業料に充当している。		
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	3	学校健康法に基づき行われている定期の健康診断は4・5月中にすべての学生が受診することになっている。教職員も同様。また、学校医「慶生会クリニック」や「滋慶トータルサポートセンター」が学生の体と精神面の健康管理をしており、学生の健康管理を担う組織体制は確立されている。	「慶生会クリニック」や「滋慶トータルサポートセンター」が学生の体と精神面の健康管理をしており、学生の健康管理を担う組織体制は確立されている。再検査対象学生を含めた健康診断受診率を100%にする。		
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	3	学園グループで運営しているジケイスペースかさい学生寮本部の学生寮(約900部屋)を中心に、近隣の提携不動産との連携により住環境の整備を確立している。	本校は入学者の約6割が一人暮らしであるため、一人暮らしを円滑に送ることができるよう、学生状況報告を担任から行なうシステムを確立する。 定期的な寮担当者会議での情報共有を活発化させる。		
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	2	接客スキルとサービスマインドを体験を通して学ぶ「学生スタッフ」を組織し運営している。 各業界主催のコンテストに参加している。	学生が主体的に取り組む活動支援を案件に応じ行っている。上位層対策としての教育を充実させ、参加等の活動を活発化させる。		
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	3	学生をサポートしていく上では、家庭との連携が大変重要と考えている。学園の基本方針に「保護者からの信頼」を掲げ、学園全体でその信頼獲得にむけ、様々な施策を実行している。 日々の出欠状況や生活面で気なることは即時に保護者と連携をとる体制や学期終了時には成績通知書の発送など常に保護者にも就学状況が分かるような取り組みを行っている。	入学式翌日に保護者会を実施し、保護者との連携を図っている。進級する直前の学習成果を保護者に体験してもらっている。		
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	2	卒業生を正会員とした同窓会組織がある。 卒後の資格取得サポートや再就職支援体制についてもシステムが確立されている。同窓会役員会を定期的に開催し、卒業生と学校が連携して魅力ある同窓会をつくりあげ、活動を活発化させていく。	【生涯就職支援システム】 キャリアアップを目指す卒業生や転職を希望する卒業生に対して、キャリアセンターでは卒業後も就職の支援をしている。 今後は、卒業生へのオンラインを使用したりリカレント教育を強化していく。 【国家試験フルサポート制度】 資格取得に関して、在校時に未取得でも卒業後も無料で特別講座を開く体制をとっている。		
	5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	2	国家試験不合格者に対する受験支援やキャリアアップのための技術指導を行っている。同窓会で講演等を行っているがさらなる発展、拡充が必要。	TOPサロンゼミでは卒業生を講師として招いている。卒業生が教えることで、自らのレベルアップに繋がることも期待している。卒業生の卒業後の動向把握。総会、専門分野別の勉強会(ネットワーク)、在校生とのコミュニティ活動を実施する。		
	5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	2	社会人のみならず、一人ひとりに合わせた履修を可能にするための長期履修制度や聴講生制度、一定条件内における遠隔授業制度などを導入している。	今後は、社会人へのオンラインを強化したりリカレント教育を強化していく。		



6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	2	施設設備の維持についてメンテナンスは主にグループ企業が担っている他、毎年秋に次年度の施設・設備の営繕等の計画を立て、更新をするよう心がけている。 日々発生するトラブルについては学生サービスセンターが担当し不具合があった場合は担当者に連絡し修理を依頼する体制で小さな不具合も迅速に対応するよう心がけている。2019年度は第一校舎増築を行った。	当校の施設設備は以下の基準を全て充足している ・専修学校設置基準 ・美容師養成施設設置基準 ・各種資格認定団体認定校 設置基準 ・消防法に関する基準 ・バリアフリー条例基準 ・その他の建築基準	2.4	良い取り組みができています。  海外研修で体験、学んだ事って卒業しても覚えていてとても良い経験だったので行けない事は残念に思う。  施設設備が整っていて緊急時の対応やマニュアルも準備されているため、環境に対する評価は高い。
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	2	学外実習については事前・事後教育、報告書、評価方法に至る一連の流れをマニュアル化している。 また、受入先とは事前に連絡を取り、その目的、学生状況を伝え、実習の内容を協議している 海外研修の渡航先に関しては、学園の国際部と連携をしている。海外研修は、「国際教育」を実践するものである。 外部へ出向いたボランティアサロンに積極的に参加している。	学外実習・インターンシップ・海外研修を行うことで、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。		
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	2	施設設備の耐震化については適切に対応している。 防災に対しては、マニュアルの整備、スタッフの役割分担、学生への情報提供など体制の整備はされている。 救急時における機器・備品も準備されている(全学生人数分の3日間分の食料、簡易トイレ、備蓄水、発電機、AEDなど)。 設備・機器のマニュアルをそれぞれの設置している教室に常備し、情報伝達に役立てている。	防災、火災訓練を実施し、学生、教職員、講師へ避難手順や方法を指示し実施している。 救急時における知識の習得と意識付けは出来ている。 ・すべての校舎入り口付近に自動体外式除細動器(AED)計5台を設置している。月に一度自動体外式除細動器(AED)の点検をしている。		
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3	東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(推薦入試による受け入れ人数等)を遵守している。	高等学校における進学説明会への参加や学校見学、体験授業の受け入れを行っている。 また、高校教員の学校見学等の受け入れは常に窓口を開いている。	3.0	良い取り組みができています。 特に学生の入学人数は運営においてとても大事なところだと思うので『7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか』についても時代に合わせ、最善策を常に検討していければと思います。  募集要項や学校側の受入体制が明確で親切さを感じる。 学納金、経費について責任者のチェックにより厳正された必要な経費である事が分かる。  少子化が進む中、十分な広報活動がなされて募集活動はよいと思われる。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	3	学生募集活動は入学前教育という位置づけにしており、受験生の①職業適性の発見・開発②目的意識の開発の支援をしていく重要なプログラムとして位置づけている。 また、WEBや電話での問い合わせについては入学事務局に情報を集約している。また、資料請求者等の個人情報管理もチェックするシステムを整備している。	健全な学校運営に必要な不可欠な安定した入学者確保のための、学科のイノベーションを常に行っている。		
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3	学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。 入学選考規定については学内での選考規程を基にした募集要項を発行し受験生に適切に告知している。 各回の選考に関しては、スケジュールを募集要項に明示し、決められた日程に実施している。	各回の入学選考は学内で組織する選考委員により基準を基にした合格判定を適切に行っている。 また、各回の受験者・合格者の実績は台帳管理している他、入学手続き完了管理(入金管理)も同時に行うことで応募者数の予測に生かしている。		
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3	各回の入学選考は学内で組織する選考委員によりアドミッションポリシーや判定基準に基づき合否判定を行っている。実績を把握し入学後のカリキュラムポリシーに準じた運営を検討している。	学び方の多様化により、通信制高校卒業生など、所謂従来の普通高校卒業生以外の入学者も増えているため、入学後支援が必要と思われる受験者に対しては、別途保護者にも来校していただき、学校ができる支援、できない支援等を明確にしている。		
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3	学納金は、その学科の教育目標達成(卒業時の到達目標)を目指した学校運営に必要な金額であり、人件費(講師・教職員)、実習費、施設管理・運営費等に当てられている。	毎年、各学科において教材及び講師の見直しを行っており、諸経費の無駄な支出をチェックしている。各学科から、素案として提出されたものを、最終的に学校事務責任者の事務局長がチェックして、厳正に確定をしている。		
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	3	東京都専修学校各種学校協会のルールを基準とし、募集要項に納入から入学辞退時の返還の取り扱いについて明記している。	合格後の辞退防止策として、入学前教育を行っているが、地方出身者へはLINEを通じたフォローを実施している。		
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	5年間の中長期的事業計画を立て、その中で収支計画を作成している。5年間の計画を立てることによって、短期的視点だけではなく中長期的な視点に立って学校運営を計画することになる。財務基盤の安定を図るために、指揮命令の系統を明確にし、計画(予算)の確実な遂行、予算実績対比により計画通りに実行されているかを確認している。	学園の本部機能は、学校の財務体制をしっかりと管理し、健全な学校運営ができるような仕組みになっている。また、財務監査は学園本部監査スケジュールを元に、会計監査人(公認会計士)、監事、理事メンバーで実施されて、健全な財務体制を築いている。	2.8	良い取り組みをおこなっている。  予算に基づき、計画を立て管理されている。 健全な学校運営がなされている。  特にありません。
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	3	チェック機能を充実させており、常に情報を把握から分析できる体制を整えている。	I. 組織体制 1. 法人統括責任者2. 学校統括責任者3. 学校事務担当者 II. 公開書類 1. 財務諸表(財務目録・貸借対比表・収支決算書)2. 事業報告3. 監査報告書 III. 閲覧場所 法人本部		
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3	5か年の事業計画においては運営方針に基づいて計画され、収支計画も運営方針に基づいて数値化される。 特に、収支計画は各学科の入学者数目標と予測、在籍目標と予測から綿密な計画を立てている。学校、学科を取り巻く環境を常に考慮し、単年度ごとに見直し、健全な学校運営・学科運営を心がけている。	学科、学年ごとに講師料予算を組み適切な予算執行を行う環境を作っている。		
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	3	収支計画(予算)は5年間作成され、そのうち次期1年間の予算については具体的に作成する。(中長期計画→短期的計画)収支計画は広報・教育・就職計画に基づいて計画され、入学者数の推定、新学科構想などを行い、予算へと結びついている。	当初予算→四半期予算実績対比→修正予算→決算という流れの中で、適正な予算執行がなされるようになっている。		

	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3	学校法人滋慶学園は公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会においてその報告をしている。	主なフローは以下の通り。 ①取引→②仕訳→③帳簿→④総勘定元帳→⑤試算表→⑥計算書類作成→⑦公認会計士及び監事の会計監査→⑧理事会・評議員会による承認→⑨行政へ報告	3.0	
	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	法律改正に迅速に取り組み、外部関係では寄附行為の変更認可及び行政への届出、そして内部関係では財務情報公開規程及び情報公開マニュアルを作成し、財務情報公開体制を整備している。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点の特徴として挙げることができる。	3.0	
9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3	学校責任者、学生支援センター、各部長が連携し、諸届け業務を滞りなく行っている。就業規則は必要が生じるごとに改定し、常に最新の状態で閲覧できるようにしている。法令順守に関わる情報発信、研修は全体会を通して行っている。また、講師研修会で講師にも周知している。	(1)組織体制 ①財務情報公開組織体制 ②個人情報管理組織体制 ③広告倫理管理組織体制 ④地球温暖化防止委員会 ⑤進路変更委員会  (2)システム ①個人情報管理システム ②建物安全管理システム ③防災管理システム ④物品購入棚卸システム ⑤コンピュータ管理システム	3.0	
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	全ての役員・教職員・講師が個人情報に関する法規範を遵守し、個人情報保護に関する基本理念を实践するために「個人情報保護基本規程」を構築し、社会的要請の変化にも着目し、個人情報保護管理体制の継続的改善にも取り組んでいる。	全教職員・学生が個人情報保護研修を受講するとともに、ITリテラシーテストも受験している。	3.0	良い取り組みができています。 特に学生も個人情報保護研修を受講し、さらにはITリテラシーテストも受験しているとのことで、これからの時代に合った取り組みだと感じる。  各評価を公表したり、情報を公開する事によりオープンな学校運営が出来ている。
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	私立専門学校評価機構に加盟し、自己点検・自己評価に関する情報収集と準備を進めてきた。昼間部学科の卒業生を輩出した平成23年度より自己点検を開始した。	平成25年度より学校関係者評価委員会を設置し学校関係者評価の整備を開始した。また、同時に評価結果の公表に向けた取り組みも開始した。	3.0	適切に行われていると思われる。
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか	3	平成25年度より自己点検自己評価を実施し、学校関係者からも評価をもらいホームページに公表している。			
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	3	学校関係者評価委員会を設置し学校関係者から評価をいただいている。			
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	3	評価結果の公表を実施している。			
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	平成25年度より教育課程編成委員会を組織し、平成26年4月からは「職業実践専門課程の基本情報について」を情報公開している。	学校が閉鎖的にならないよう、施設開放をしている。		
10 社会貢献・地域貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	学校施設を開放し、業界の研修場所、試験会場として開放しているほか、昨今はTV、映画のロケ地として開放している。 江戸川区の地域振興課主催の地域イベントへの協力	地域振興課主催の地域イベントは学生の視野、価値観、人間性を高める機会と捉え、推奨している。	2.4	コロナ禍において制限されることもあると思いますが、その中でできることや準備をおこなっているようなので良い動きはできていると感じる。 コロナ明けにはコロナ前と同等の活動がすぐできると良い。  海外研修の代替案として、学校だけの意見ではなく、学生さんの意見を聞いてみるとより良いものになるのではないかと。  コロナ禍において様々な活動に制限がかけられ中止になる物が多い中、別の形で地域貢献したりオンラインに変えたり工夫され 学生の意識向上に繋がっている。  社会や地域への貢献は学校への信頼へとつながるので今後も大切にしていきたい。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	1	海外研修を後期に予していたため、渡航中止の判断が遅くなってしまった。そのため、代替のプログラムを用意することが出来なかった。	新型コロナウイルス感染症により海外への渡航が難しいため、今度の課題としてオンラインによる交流を予定している。		
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	2	学校近隣への清掃活動をおこなった。(年度当初) コロナ禍において行政より放課後の活動などの自粛があり、活動が出来なくなってしまった。	全学科対象とした清掃活動を通じて、地域貢献の意識を高めている。		
◆学校関係者評価委員の御意見に基づく改善方策						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習収受度の向上と(笑)なる資格合格率の向上</li> <li>・コロナ禍での目的を達成できるための国際教育強化</li> <li>・地域貢献活動の充実</li> </ul>						